

日本藻類学会第 49 回大会（沖縄大会）開催記

田中 厚子

2025 年 3 月、沖縄らしい快晴の中で日本藻類学会第 49 回大会が琉球大学千原キャンパスにて開催されました。初日にあたる 21 日の評議会は、学会事務局の皆様のご配慮でアクセスが便利な那覇市内の会議室にて開催され、また編集委員会については事前にオンラインでの開催となりました。22, 23 日が琉球大学での大会となり、翌日 24 日には名護市嘉陽にてエクスカーショが行われました。

琉球大学は那覇空港から公共交通機関で 1 時間以上かかる場所に位置することもあり、参加者の方にご不便を強いることになることが最大の懸念事項でした。さらに卒業式シーズンの開催となったことから、準備段階では参加者数の低迷を危惧しておりましたが、蓋を開けてみれば参加者数 261 名（うち学生 78 名）、発表演題数 139 件（口頭発表 67 件、ポスター発表 72 件）、協賛企業・団体数 12 団体、と大盛況の大会となりました。参加して頂きました皆様、協賛して下さった企業・団体の皆様にまずは心よりお礼申し上げます。

前回の沖縄大会（第 33 回大会）は 2009 年 3 月に今回と同じ琉球大学千原キャンパスにて開催されました。それから 16 年が経過し、藻類を取り巻く状況も大きく変化したように思います。特に藻場の衰退は加速の一途を辿り、沖縄でも海藻・海草藻場の消失は深刻さを増す一方です。そのような状況を受け、今大会では公開シンポジウム「サンゴ礁海域における藻場の現状と未来」が開催され、活発な議論が交わされました。もう一つの変化は藻類に対する社会ニーズの変化です。多くの企業が藻類の可能性に注目し、藻類を用いた多様な展開を進める勢いは 16 年前の比ではないように感じます。その流れを学会員の皆さんとも共有したいという思いから、公開企業セッション「微細藻類を活用した価値創造と産業利用の現状」を開催いたしました。これら 2 つを「公開」としたことは、より幅広く、一般の皆さんとも共有すべきことだと判断です。これら 2 つの会場は共に多くの参加者の方が集まり、学会発表とはまた違った意見交換の場となりました。ご協力頂きましたオーガナイザーの方々、講演者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

今回、第 49 回大会では私ども実行委員会の希望で、学生発表賞の表彰式を 2 日目に開催して頂きました。その理由は発表プログラム編成にあります。学生発表賞の表彰を 1 日目夜に開催される懇親会の中で行うためには、学生の発表を全て 1 日目に集める必要があります。しかし昨今の研究内容の多様化、また学生研究の高度化を考えると、学生発表を 1 日目に集めるというのは大変困難なことであると判断しました。また学会の趣旨を思えば、研究内容に沿ったプログラム編成は活発な議論を支える礎であるとも言えます。このような考えから、実行委員会から学生発表賞を主催する学会事務局へ

ご相談したところ、大変寛大なことにご承諾を頂くことができました。しかし我々のこのお願いのせいで、事務局の皆様、並びに審査員の方々には多大な負担をお掛けしたものと思います。この場を借りて、心からお詫び申し上げます。ご協力頂きました皆様、および参加者の皆様のおかげで、口頭発表・ポスター発表の会場では大変活発な議論が繰り広げられており、その様子に心から安堵したことを覚えております。

今大会の準備・開催においては、本当に多くの方にご協力頂きました。一番のご負担をお掛けしたのは、要旨集の編集に関わる東京大学の岩滝光儀先生、国立環境研究所の山口晴代先生ではないかと思います。膨大な修正と度重なる変更により、咄然とされていたのではないかと思います。本当に申し訳なく思うと同時に、お二人のプロフェッショナルなご対応に心から感謝しております。ありがとうございました。また学会長である河地正伸先生をはじめ、事務局の皆様にも色々ご相談や無理なお願いをしてしまい、多大なるご面倒をお掛けしたと反省しております。一方で、様々なサービスのオンライン化や若い世代の意識の変化など、慣例を見直す必要を感じた部分もありました。皆様を少なからず驚かせてしまった若手の会での「大量ドタキャン騒動」もその一つかもしれません。多くの方にご心配頂きましたが、皆様のご協力もあり、大会全体としては黒字で終わることができました。キャンセル料にご寄付頂きました皆様、本当にありがとうございました。倫理面はさておき、この騒動も登録や支払いのやり方によって未然に防ぐことは可能だと思います。このような改善点もしっかりと次の大会実行委員会の皆様に引き継いでいこうと思います。

今年 3 月の沖縄は暴風や雨など、必ずしも晴天ではない日が続いており、大会前週まで、雨が降った場合の鬱々とした状況を想像して不安に思っておりました。しかし実際は、評議会の日からエクスカーショまで快晴が続き、皆様にも沖縄の素敵な春を楽しんで頂くことができました。沖縄は古来より自然崇拝を主軸にする文化です。沖縄の神様が皆様の藻類学研究を歓迎し、応援して下さいのだと思います。今回の大会が皆様の藻類学研究にとって、少しでも良い影響を残せていればと願っております。事務局の皆様、和文誌編集委員会の皆様、シンポジウム関係者、企業セッション関係者、協賛会社・団体の皆様、エクスカーショ講師・サポーターの皆様、そして参加して下さいました全ての方に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

（琉球大学）



日本藻類学会第49回大会ポスター発表の様子。



シーサーが迎える大会正面玄関の看板(左)と懇親会で振舞われた泡盛古酒の解説をする須田彰一郎大会会長(右)。